

国立病院機構熊本医療センター

No.246



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519
連携室直通 TEL (096) 353-6693
連携室直通 FAX (096) 323-7601



「熊本市災害医療訓練」 が行われました

10月21日（土）に熊本市災害医療訓練が行われました。熊本地方を震源とするM7.3、震度7の地震が発生し、熊本市内の道路・橋等の一部が通行不可、電話も一部不通となり、当院ではエレベーター、CT・MRIが使用できない状態という想定で訓練を行いました。

9時の地震発災後、200名あまりの職員が自主参集し、災害対策本部会議運営、広域災害救急医療情報システム（EMIS）運用、トランシーバーでの情報伝達訓練、60名の模擬患者による多数傷病者受け入れ、非常食炊き出し、ボランティア受け入れ、臨時調剤所・仮設病棟設置、当院独自の災害用カルテ運用など多岐にわたる訓練を行いました。

参集した職員の役割分担を予め診療科や部署で決定していたので、スムーズに各部署を立ち上げることができ、また、トランシーバーを用いたエリア間の連携も試み、本番さながらの緊張感で参加者全員が真剣に取り組み、非常に有意義な訓練を行うことができました。

参加者の意見をもとに、反省会を実施し、管理診療会議で報告も行いました。実際の震災を経験後、初の訓練となりましたが、今後の災害対策の強化に繋がる良い機会となりました。（庶務班長 毛利安則）



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「診療もマラソン同様」

永田皮膚科医院

院長 永田 貴久



喜ばしいことに「永田皮膚科医院」のある玉名市で誕生した「マラソンの父」と呼ばれる金栗四三さんが2019年のNHK大河ドラマの主人公となることになりました。全国放送で熊本弁を果たして字幕無しで放映できるのか楽しみにしております。

当院は私の父が昭和57年から約35年もの間、「治す」をモットーに献身的な医療を提供してきたことから、地域住民の皆さんから大きな信頼を得ております。しかし父も気力・体力の限界を迎えておりましたため、本年9月1日をもって私が医院を承継し

院長職を引き継ぐこととなりました。遅れ馳せながらの自己紹介にはなりますが、私三度の飯より釣り（特にタイラバ）が好きな三児の父親です。

当院は、忙繁期には1日に280人を超える患者さんが来院されることもあり、そのような日の診療終了頃にはマラソンでいうところのランナーズハイも通り過ぎ、ほぼ燃え尽きております。残った気力を振り絞って美容医療（光治療やレーザー治療など）を新規導入で細々と運用し、現在電子カルテや待ち時間管理・表示システムなども検討しているところです。

話は変わり、本年4月に公立玉名中央病院に皮膚科の常勤化がなされました。私が当院に副院長として赴任してからの6年間は近隣に皮膚科入院が可能な基幹病院がなく、比較的症状の重い患者さんも外来でフォローする必要があり、手術なども可能な限り対応して参りましたが限界も感じておりました。その様な中、医院では対応不可能な症例を常に快く引き受けて頂いたのは国立病院機構熊本医療センターです。皮膚科の牧野公治先生や形成外科の大島秀男先生はじめ、多くの先生方やスタッフの皆様にごの場を借りて厚く御礼申し上げます。これからも病診連携をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（ホームページを自作しましたのでお時間あればご覧になってください！<https://www.nagatahigura.com>）

第23回 国立病院機構熊本医療センター医学会の開催と演題募集のご案内

第23回国立病院機構熊本医療センター医学会が2018年1月20日（土）に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をCDRまたはUSBメモリに入れて下記宛てにご送付頂くか、e-mailにてご送信下さい。多数のご参加をお待ち致しております。

抄録提出締切日：2017年12月8日（金）

- 抄録の文字数は全体（演題名、所属、発表者、共同演者、本文）で600字以内にしてください。
- 本文は【目的】【方法】【結果】【総括】、症例報告は【目的】【症例】【経過】【考察】にそって記述して下さい。
- 図表の使用はできません。半角カナは使用できません。
- 尚、発表は原則としてPCで、使用ソフトはパワーポイントで作成したものに限りです。
- 発表時間は6分、討論3分です。
- 参加費は無料です。

お問い合わせ・送付先：〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 臨床研究部長 日高道弘

TEL：096-353-6501 FAX：096-325-2519 E-mail:scott@kumamed.jp

熊本大学大学院生命科学研究部 脳神経外科学分野 武笠晃丈教授の特別講演が行われました

平成29年9月付で熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野の第4代教授にご就任された武笠晃丈（むかさ あきたけ）先生による特別講演が平成29年10月18日に当院研修センターホールにおいて行われました。「脳腫瘍診療におけるサイエンス」と題して、診断から治療まで幅広く解説されました。特に、ご自身の研究成果をもとに、神経膠腫グリオーマの悪性化や再発時の遺伝子変異が体系的に解明されたこと、また、抗癌剤使用による遺伝子変異が却って腫瘍増殖能を高める例など、印象深く拝聴しました。グリオーマが従来の病理分類から遺伝子分類の時代となり、乳癌治療のような個別化・最適化治療の時代がいよいよ到来することを予感させるものでした。約1年間という悪性グリオーマの平均生存期間がこの数十年間変わらないことを考えると、遺伝子治療がブレイクスルーになることを願います。

スライドの内容は専門的で難解であったにもかかわらず



講演される武笠晃丈教授

らず、全聴衆の方が最後まで“覚醒”されていたのは、先生の実直なお人柄を感じ情熱的な解説に魅了されたからに他なりません。先生は長らく東京大学腫瘍チームの責任者としてご活躍されて来られました。ここ熊本の地で、益々ご活躍されることを祈念します。

(副院長 大塚忠弘)

臨床研究部長就任のご挨拶



臨床研究部長

日高 道弘

2017年11月1日をもって臨床研究部長を拝命しました日高道弘です。私は成人T細胞白血病リンパ腫を発見された高月清先生の主宰される熊本大学旧第二内科に入局し、血液疾患の診療・研究に従事してまいりました。当院へは2000年10月に熊本大学からの異動で参りました。当時血液内科は、初代臨床研究部長の河野文夫先生が取り仕切っておられ、清川哲志先生が医長として実務を驚くべき迫力で展開されていました。その後、お二人から血液診療を引き継がせていただきましたが、すでに同種移植施設として全国的に知られて

いた血液内科の業績を、少しでも発展させるよう努めてまいりました。

河野先生は臨床研究のみならず当院の発展にあらゆる面で大きく貢献され、その恩恵を今でもしみじみと感じています。また前任の芳賀克夫先生は、研究面はもとより若手の教育、医療安全対策、国際医療協力などどれをとっても卓越した実績を挙げておられます。このような大きな存在の後任となることは不安ばかりではありますが、私なりに精いっぱい責務を果たしてまいりたいと存じます。皆様方からご指導・ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。



モニター会議が行われました

地域住民の皆さまから幅広く意見を聴取し、診療機能の充実を図ると共に、地域に密着した病院として、良質な医療の推進を図ることを目的とする「モニター会議」を10月20日（金）に開催しました。

モニター委員として、一新校区自治協議会会長の毛利秀士様、森からし蓮根女将の森裕子様、肥後象嵌光助代表取締役社長の大住裕司様、一新校区第10町内自治会会長の藤原謙吾様、西山中学校PTA副会長の橋本弥生様、一新校区第1町内自治会会長の福住いさ子様の計6名の皆さまにご参加頂きました。

会議では、病院紹介として高橋院長の「病院概要の説明」を始め「血管内治療について」、「市民公開講座の開催について」、「精神科の取り組みについて」、「シャトルバス運行状況について」、「専門看護師・認定看護師の紹介について」、「学校行事について」、「病院増改築工事の進捗状況について」、「ボランティア活動について」と今年は各部署からの近況報告等を行いました。当院の概況について説明した後に、委員の皆様から当院に対するご意見を頂きました。

ご意見として「設備関係が本当に充実していて、近隣住民は身近な病院として感じている。」、「現在、増改修工事を行っているが、完成したら現場見学会を開催して欲しい。」、「工事のため一方通行となっているが、出口から出てからの最初の信号の時間が短くすぐに渋滞する。」、「夜間は出口の標識がわかりにくい。」などの設備面のご意見を頂きました。



モニター会議の様子

また、診療の面で「血管内治療の話があったが、脳梗塞の前兆とかありますか。」「当院の救急で治療を行って頂き、とても助かりました。」「手術に入る時、看護師さんから優しい言葉をかけて頂き、気持ちがとても楽になりました。」等感謝のお言葉も頂きました。

その他として、「看護学生に地域の福祉まつりや精霊流しの受付の手伝いなどのイベント等に参加してもらって励みになっている。今後もよろしくお願ひします。」とのお言葉を頂きました。

予定時間を20分も超過して、有意義な意見交換となりました。これからも地域住民の皆さまのご意見等を参考にさせて頂きながら、地域に密着した病院となるよう努力していく所存でございますので今後ともよろしくお願ひいたします。（管理課長 福田信也）

「一新校区福祉祭り」に参加してきました

毎年恒例の「一新校区福祉まつり」が10月15日（日）午前10時から、一新小学校体育館で開催されました。来賓には第一高校校長 松山秀峰様、熊本市中央区長の石櫃仁美様、そして毎年当院の院長も招待されており今年も出席しました。来賓挨拶の後、一新校区の皆さんと楽しく催し物を歓談しました。

まず、一新幼稚園児による一新和太鼓の演奏にはじまり、一新小学校吹奏楽部の演奏を楽しみました。そして、伝統ある新町獅子舞保存会による獅子舞、津軽三味線の独演、最後に一新校区のお住まいのフランクフルヤさんによる歌唱がありました。会場は終始和やかな雰囲気につつまれていて、一新校区の地域の力と、古くからの伝統を大切にできる心を感じることができた1日でした。最後に、一新校区自治会の皆さんによる心づくしのだご汁とぜんざい、おにぎりに舌鼓を打ちました。

この準備には、例年当センター附属看護学校の学生



一新幼稚園児による一新和太鼓の演奏

8名がボランティアで参加しています。一新校区は魅力ある町作り活動が精力的に行われていて、そのお手伝いに当校の学生も意欲的に参加しています。また当院のモニター会議は一新校区の皆さんで構成され当院の運営にも参加していただいています。

（院長 高橋 毅）

「医療安全相互チェック」を受けました

平成29年10月30日に医療安全相互チェックが行われました。医療安全相互チェックとは、国立病院機構の各病院における医療安全対策の現状について病院間で意見交換及び評価を実施し、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図ることを目的としています。

今年度は、九州医療センター、鹿児島医療センターと当院の3施設間で実施され、当院は10月30日に九州医療センターからチェックをうけました。病棟訪問は5西病棟と7北病棟を、各部門は薬剤部、放射線科、検査室、手術室、リハビリテーション科、臨床工学室のチェックを受けました。

評価は、「組織横断的な多職種によるチームラウンドが多岐に渡り、活動されているところが素晴らしい。特に精神科リエゾンチームを中心にせん妄患者に対する睡眠剤の検討や、転倒転落防止に関する対応策を参考にしたい。」と言って頂きました。課題としてマニュアルのフローチャート化を勧め、見やすく、わかりやすいものへ改訂する必要があると考えます。来年度は病院機能評価受審を控えているため、今後も全職員一丸となって医療安全活動に努めていきたいと思えます。

(医療安全管理係長 堂園千代子)



左側：九州医療センターの訪問スタッフ 中央：九州グループ、鹿児島医療センターの方々 右側：当院スタッフ



病棟訪問の様子（7北）



病棟訪問の様子（5西）



医療機器管理について田代臨床工学技士長より説明

新専門医制度について

当院は新しい専門医制度に対応し、下記の4領域の専門研修プログラムを提供します。

1. 専門研修プログラムについて
 - ・内科プログラム、麻酔科プログラム、救急科プログラム、総合診療科プログラム
2. 研修期間
 - ・内科プログラム、救急科プログラム、総合診療科プログラム 3年間
 - ・麻酔科プログラム 4年間
3. 応募資格

平成30年3月31日に医療法16条の2第1項に定める臨床研修を修了する見込みの者
4. 専攻医登録及び出願書類
 - ・専攻医登録

希望する研修プログラムの領域学会ホームページより、専攻医登録システムへアクセスしてください。
(当院ホームページよりリンク貼付有)
 - ・出願書類
 - ①申請書、②履歴書、③医師免許証（コピー）、④臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書（①・②については、当院ホームページに所定様式有）
 - ①・②に必要事項を明記し、③・④を同封の上、下記の応募連絡先までご郵送下さい。

※各プログラムの詳細については当院ホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

【応募先及び問い合わせ先】

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5 国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課庶務係長 森松
TEL 096-353-6501 (代) FAX 096-325-2519 E-mail 613sy01@hosp.go.jp

平成29年10月27日(金) 10月28日(土)

「花粋祭」を開催しました

1日目はボランティア報告と意見交換会、健康教室「栄養と健康」について企画しました。

本校は年間を通して地域や臨地実習施設等の依頼を受け、様々なボランティア活動に参加しています。そこで4月から10月の活動状況を報告したあと、3学年でボランティア活動と活動を通して学んだこと等について意見交換しました。当日、ボランティアを依頼された地域の方から催事の由来を聞き、活動に参加する責任と自覚を改めて感じました。

健康教室では「栄養と健康」について学生が講義をしました。熊本県は全国に比べて肥満の方が多いということと食欲の秋と言うことで肥満対策のレシピや座ってできる運動を紹介させていただきました。

2日目はゲームコーナーやステージ発表、血圧測定などを企画しました。ステージ発表ではよさこいやソーラン節踊り、合唱などを発表しました。この他にも、



ステージでよさこい、ソーラン踊りを披露しました

模擬店を出店したり、血圧測定をしたり、ナース服体験なども企画しました。様々な企画を通して来場者の方と交流することができました。2日目の天候は雨となりましたが、子供さんからご高齢の方まで2日間で96名の方に来場して頂きました。ありがとうございました。



健康教室で運動を実践しました



血圧測定を来場者の方に行いました

(熊本医療センター附属看護学校実行委員長 川上千聡)

「研修医マッチング」が行われました

お陰様で医科総合プログラム（16名募集）、プライマリケア（3名募集）、及び歯科臨床研修プログラム（2名募集）のいずれも例年どおりフルマッチ致しました。

医科では熊大学生が11名と他は九州内の5大学から8名、歯科では九州大学をはじめ2名がマッチ致しました。

中間発表では当院の医科総合プログラムについては25名が当院を一位研修先として希望され、これは大学病院を除く全国900の基幹型研修病院の中で沖縄県立中部病院などと並んで堂々の30位でした。

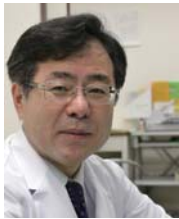
臨床研修病院としての総合力を評価されたものとあ

りがたく感じますとともに、研修医をあずかり立派に育てる責務を改めて痛感致します。協力型臨床研修病院の先生方や各病院の先生方、開業医の先生方の御協力なくしては充実した研修医教育は行えません。今後とも研修医教育の面からも当院への御指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(教育研修部長 富田正郎)



最近のトピックス

 新しい超音波治療モダリティ
 ～フュージョン・イメージングと
 パイポーラRFAシステム～

 消化器内科部長
 消化器病センター長

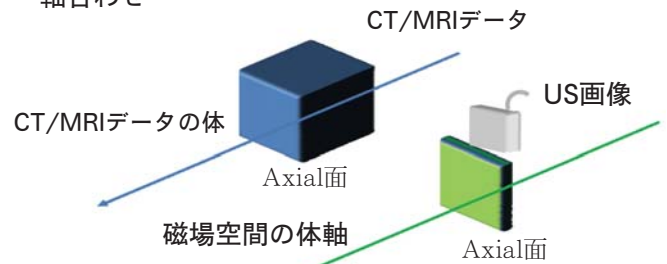
杉 和洋

早期肝がんの内科的治療として経皮的ラジオ波焼灼(RFA)療法が広く行われています。最近の医療機器の進歩として、治療支援としてのフュージョン・イメージングと、バイポーラ電極によるRFA治療について紹介します。

経皮的治療は目的の腫瘍を超音波で確実に描出し正確に穿刺することが必要です。治療後の局所再発や、超音波で不明確な腫瘍を治療する場合にはフュージョン・イメージングが有用です。さらにリアルタイムに治療効果を確認することも可能です。当院では2017年4月超音波診断機器Aplio 700iの導入により、操作性の向上と相まってルーチン検査および治療支援として使用回数が増加しています。実際の手順として、事前に造影MRIや造影CTで腫瘍が明瞭に描出されていれば、予めそれらの画像データをCD-Rにコピーし、超音波装置に取り込みます。施設によっては直接画像サーバからDICOM経由で超音波装置に取り込むこともできます。患者様を診察台に背臥位にして超音波機器の磁気センサーシステム送信機(ポジションセンサー)を近づけ、位置センサーを取り付けたプローブを用いて軸合わせを行います。患者様の体軸の直交面(Axial面)にプローブを置きセットします。次にMRIやCTの取り込み画像を参照しながら超音波画像と同じ目標を2-3か所(門脈や肝静脈分岐部など)合致させます。これで設定が完了し、MRI/CT画像データを同期させながら超音波ガイド下での穿刺治療が可能となります。治療直後の病変はMRI/CT画像と超音波画像を同期させることで、リアルタイムに治療効果の評価ができます。

■フュージョン・イメージング

軸合わせ



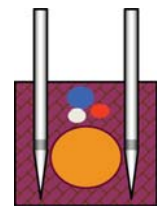
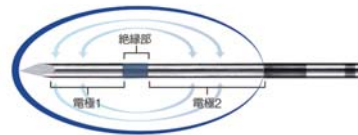
■ポジションセンサー



■位置センサー



■バイポーラRFA電極



マルチニードルによる非接触凝固

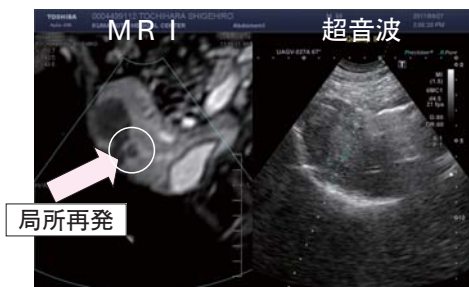
- アプリケータ先端部に2つの電極
- 2つの電極間に通電され凝固する
- 対極板不要→熱傷の心配がない
ペースメーカー等への影響がない
- 複数本同時凝固が可能(非接触凝固)

これまでクールチップに代表されるモノポーラ電極を用いたRFA治療を行ってきましたが、腫瘍が肝表面近くに存在する場合は穿刺による出血や播種のリスクがあり、ペースメーカーなどのデバイスを持つ症例では電磁波の干渉のリスクがあります。これらの症例ではバイポーラ電極が有用です。急激な熱膨張によるとされる突沸(ポッピング)が起きにくく、複数の電極針で腫瘍を挟むように焼灼することで広い範囲の焼灼が可能です。問題点として電極針先端の視認性がモノポーラに劣る点が挙げられますが、磁気センサーシステムを用いた針ナビゲーションシステムを併用することにより安全な穿刺が可能です。

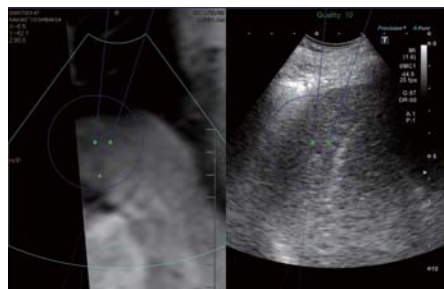
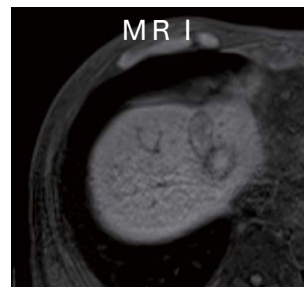
これらの治療は2017年4月より本格的に開始しました。これから実績を重ねていく予定です。

次頁へ

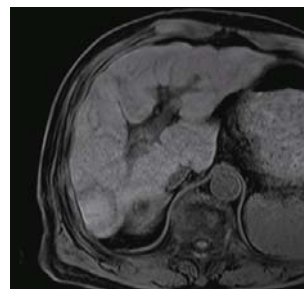
前頁より



フュージョン・イメージングを用いたRFA治療 治療前（左） 治療後（中） 治療5日後（右）



バイポーラ電極針2本と針ナビを用いたRFA治療 治療前（左） 治療後（中） 治療5日後（右）



病院増改修整備工事の進捗状況

いよいよ本杭打ちの工事が始まりました。地下およそ30mまで掘削し、同じく約30mの杭を90本以上打ち込みます。当初、11月中旬までの工期を予定していた杭打ち工事ですが、地質の関係から予定どおりに杭を打ち込むことができず、工期が若干遅延している状況です。

現在、対応を検討しているところであり、今後の日程につきましては明らかになり次第、お知らせ致します。

皆さま方へは大変ご不便おかけいたしますが、引き続き、ご理解とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
(業務班長 安藤隆幸)



本杭打ち工事の様子

<今後のスケジュール予定>

- ・研修棟、売店食堂棟解体：Step 2 平成29年4月～平成29年8月(終了)
- ・増築棟新築工事：Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- ・外来棟改修工事：Step 4 平成30年12月～平成31年8月

(※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。)

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 096-353-6693

月～金(祝日を除く) AM 8:30～PM 17:00



いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ119回

治験用災害時手順書及び確認表の作成

治験センター 吉井 薫

2016年4月14日、16日に2度の震度7を超える熊本地震が発生しました。治験センターのスタッフは本災害に際し、被験者や治験依頼者への連絡等治験スタッフとしての対応と震災に伴う職場のインフラ復旧等病院スタッフとしての対応を行いました。当院は災害拠点病院であり、病院全体の院内災害時手順書は作成されていましたが、治験用の災害時手順書は作成していませんでした。そのため、熊本地震の際は、被験者の安否確認や治験依頼者への連絡等を個々の判断で行わざるを得ませんでした。今回の経験から治験センターにおいても、大規模災害発生に備えた実施体制の構築や手順書等の整備の必要性を実感し、治験用災害時手順書及び確認票を作成したので報告します。

【目的】

大規模災害発生時に迅速、的確な対応を実施するための治験災害時手順書及び確認票を作成しました。

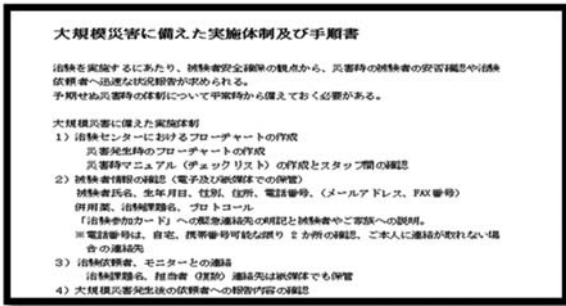
【方法】

治験センタースタッフが、被験者や治験依頼者と災害時に対応したことを時系列にて書き出しました。そこから問題点や改善点を抽出し、以下のような手順書及び確認票を作成しました。なお本手順書は、「臨床研究・治験における大規模災害時の対応指針（平成25年度厚生労働科学研究費補助金臨床研究・治験における大規模災害時の対応指針）」を参考に作成しました。

1. 治験センタースタッフの緊急時連絡網の構築
2. 治験災害時手順書(大規模災害に備えた実施体制及び手順書、フローチャート急性期、亜急性期)
3. 治験災害時手順書に基づいた行動確認表(チェックリスト)
4. 被験者連絡先ファイルの作成

【結果・考察】

治験センタースタッフは災害による被験者の安否確認や治験依頼者への報告をするとともに、病院スタッフとしての役割も求められます。またスタッフ自身も被災者になります。そのような中で、対応できる限られた人数で情報を共有し、的確な行動を速やかに実施する必要があります。治験用災害時手順書を作成したことで、確認すべき内容が瞬時に把握でき、迅速な対応・報告が可能となりました。本手順書は、当院治験センター内での協議により作成しており、治験依頼者への確認は行っていません。今後は治験依頼者の求める情報等も検討し、手順書及び確認表の改訂を行っていきたいと考えます。



資料1：治験災害時手順書<一部抜粋>

項目	チェック	項目
被験者	<input type="checkbox"/>	被験者の安否
	<input type="checkbox"/>	所在(自宅、避難所等)、住居や周辺状況(ライフライン)
	<input type="checkbox"/>	被験者連絡先の再確認
	<input type="checkbox"/>	治験薬の紛失、破損、保管状況
	<input type="checkbox"/>	身元の被害状況
	<input type="checkbox"/>	併用薬の被害状況
	<input type="checkbox"/>	継続来院可能か
	<input type="checkbox"/>	来院日調整
依頼者報告	<input type="checkbox"/>	ePRO・日誌等の紛失、破損
	<input type="checkbox"/>	治験継続・中止の協議及び対応処法の確認
	<input type="checkbox"/>	被験者、ePROの安否
	<input type="checkbox"/>	周辺状況、ライフライン状況
	<input type="checkbox"/>	今後の連絡方法
	<input type="checkbox"/>	治験管理庫、治験薬温度管理、破損状況
	<input type="checkbox"/>	書類破損紛失
	<input type="checkbox"/>	検査試料の破損や紛失
	<input type="checkbox"/>	IRB実施変更の有無
	<input type="checkbox"/>	

資料2：チェックリスト(院内)<一部抜粋>

<依頼者報告用シート> 作成日：2017年 〇月〇日

〇〇治験依頼者各位 国立病院機構熊本医療センター 治験センター 〇〇〇

<現在の院内の状況について報告致します>

状況

施設全体の状況

外来診療体制 通常

制限をかけた診療体制

診療不可

その他

入院診療状況 通常

制限をかけた診療体制

その他

院内検査実施状況 通常

制限をかけた実施

検査不可

その他

可能な連絡手段 電話(込み合いにつきなりにくい状況)

e-mail

FAX

郵便

訪問

資料3：チェックリスト(依頼者報告用)<一部抜粋>



資料4 熊本地震後の治験センター

研修医レポート

臨床研修医

ふかみ ひろし
深水 浩之



こんにちは。研修医1年目の深水浩之と申します。岩手医科大学医学部を卒業しこの4月から熊本医療センターでお世話になっております。研修開始から早半年が過ぎましたが、まだまだわからないことも多く、スタッフの方々にはご迷惑をおかけすることも多いですが、精一杯研修生活を送っております。

私は4月に循環器内科から研修をスタートいたしました。最初は電子カルテの使い方もままならない状態でしたが、指導医の先生をはじめとし、2年目の研修医の先生、スタッフの方々に丁寧に教えていただき、少しずつではありますがわかるようになっていきました。診療の面では、急性心筋梗塞、肺塞栓をはじめ様々

な症例を経験することができ、学生の時に苦手意識が強かった心電図についても熱心に指導していただき大変勉強になりました。

次に研修した救急外来では、動脈採血をはじめ、中心静脈カテーテル、気管挿管など様々な手技を経験することができました。正直、重症の患者さんが運ばれてきたときには何をしたいのか戸惑うことも多かったです。頼もしい指導医の先生方に助けをもらいながら、充実した毎日を送ることができました。

血液内科では、骨髄穿刺、PICC挿入、腰椎穿刺などの手技を経験させていただきました。また移植症例が多く、毎日色々なことを考えさせられ、大変貴重な経験をさせていただきました。

外科では数多くの手術を経験させていただきました。朝も早く、手術件数も多い為、体力的にハードでしたが、術後の全身管理など学ぶことも多く、充実した研修となりました。

現在は神経内科での研修がスタートしたところです。これからも多くの方々にご迷惑をおかけするとは思いますが、常に謙虚な姿勢を忘れずに日々精進していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

のづはら あつし
野津原 淳



こんにちは、研修医1年目の野津原淳です。久留米大学を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から半年経ちますが、まだまだ未熟なところが多くスタッフの皆さんに助けをいただきながら毎日を過ごしています。

私は、4月に呼吸器内科から研修をスタートしました。最初は電子カルテの使い方やオーダーの出し方などを覚えることで精一杯でした。呼吸器内科では胸腔穿刺の手技や人工呼吸器の使い方などを学ばせていただきました。

次の麻酔科では、静脈路確保や気管挿管、ルンバール、動脈ラインの確保などの手技に加え、豊富な薬剤の使い方を学ばせていただきました。手術中のバイタルの変化に応じての対応を考えることも多く、緊張感

のある日々でした。

次の消化器内科では、毎日超音波検査を行う中で、難しい中でも少しは自分でも当てられるようになったと実感できました。また、絶食の患者様が多い中での輸液の調整なども学ばせていただきました。

次にローテートした救急外来では、毎日様々な疾患で搬送されてくる患者の対応に追われる日々でした。問診、身体所見からの必要な検査のオーダーや鑑別疾患の除外、1分1秒を争う中での診療に緊張感のある日々でした。

現在は外科で研修させていただいています。外科では、実際に手術に入らせていただき手術の流れや手技だけではなく、術後の管理なども学ばせていただいています。

まだまだわからないことも多く、先生方やスタッフの方々にはご迷惑をおかけしていますが、周りの方々からの熱心な指導のもと充実した研修の日々を送らせていただいています。今後とも御指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

研修のご案内

第7回 診断と治療－最新の基礎公開講座－ [日本医師会生涯教育講座 2.5単位認定]

日時▶平成29年12月2日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：たしま外科内科医院 院長

田嶋 哲 先生

演題：「胃癌治療の最新の話題」

1. 胃癌治療ガイドライン－内視鏡的切除－

熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学助教

庄野 孝 先生

2. 胃癌治療ガイドライン－手術－

国立病院機構熊本医療センター外科医長

岩上 志朗

3. 胃癌治療ガイドライン－化学療法－

熊本大学医学部附属病院外来化学療法センター長

陶山 浩一 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第95回 特別講演(無料) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年12月13日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本労災病院 院長

猪股裕紀洋 先生

「日本の肝移植医療の現状と未来への展望」

熊本大学大学院生命科学研究部小児外科学・移植外科学分野教授 日比 泰造 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

第226回 月曜会(無料) (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年12月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 術前に肝細胞癌と診断されたSAA陽性 focal nodular hyperplasia like nodule (FNH-like nodule) の一例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

久木山直貴

「第2症例 脳幹梗塞を疑われて紹介となった若年女性の一例」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

岡田 匡充

2. ミニレクチャー「高Ca血症と急性腎障害」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

中村 朋文

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519



2017年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修センターホール	研 修 室
1日 (金)		
2日 (土)	<p>15:00~17:30 第7回 診断と治療 -最新の基礎公開講座-</p> <p>「胃癌治療の最新の話」</p> <p>[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]</p> <p>座長 たしま外科内科医院 院長 田嶋 哲 先生</p> <p>1. 胃癌治療ガイドライン -内視鏡的切除-</p> <p>熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学助教 庄野 孝 先生</p> <p>2. 胃癌治療ガイドライン -手術-</p> <p>国立病院機構熊本医療センター外科医長 岩上 志朗</p> <p>3. 胃癌治療ガイドライン -化学療法-</p> <p>熊本大学医学部附属病院外来化学療法センター長 陶山 浩一 先生</p>	
3日 (日)		
4日 (月)		
5日 (火)		
6日 (水)		
7日 (木)	<p>8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー</p> <p>「免疫組織化学的検索」</p> <p>国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長 村山 寿彦</p>	
8日 (金)		
9日 (土)	<p>13:00~15:30 第147回 公開看護セミナー (要申込)</p> <p>「急性期病院からつなぐ地域包括ケア」</p> <p>九州看護福祉大学生涯教育研究センター 准教授 開田 ひとみ 先生</p>	
10日 (日)		
11日 (月)		
12日 (火)		
13日 (水)	<p>19:00~20:30 第95回 特別講演</p> <p>「日本の肝移植医療の現状と未来への展望」</p> <p>[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]</p> <p>座長 熊本労災病院 院長 猪股 裕紀洋 先生</p> <p>熊本大学大学院生命科学研究部</p> <p>小児外科学・移植外科学分野教授 日比 泰造 先生</p>	<p>★今月の注目</p> <p>事前の参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。</p>
14日 (木)	<p>8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー</p> <p>「急性腎障害の治療」</p> <p>国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 梶原 健吾</p>	
15日 (金)		
16日 (土)	<p>14:00~16:00 公開肝臓病教室 (要申込)</p> <p>「もっと知りたい肝臓の話」</p>	
17日 (日)		
18日 (月)		<p>19:00~20:30 第226回 月曜会 (内科症例検討会) (研2)</p> <p>[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]</p>
19日 (火)		
20日 (水)		
21日 (木)	<p>8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー</p> <p>「救急で問題となる代謝・内分泌疾患」</p> <p>国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 小野 恵子</p> <p>14:00~15:00 第57回 市民公開講座</p> <p>「出血しやすくなる病気」</p> <p>国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 河北 敏郎</p>	
22日 (金)		
23日 (土)		
24日 (日)		
25日 (月)		
26日 (火)		
27日 (水)		
28日 (木)	<p>8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー</p> <p>「播種性血管内凝固症候群」</p> <p>国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子</p>	
29日 (金)		
30日 (土)		
31日 (日)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)